

# 会報

# 京都マイコン研究会

第 85 号

(通算102号)

1994年8月1日 発行

発行人 圓口佳昭

## トピックス or ニュース

編集部 増田

7月17日。夏のまちは、祇園まつりの真っ最中で、今年は日曜日でもあり観光客など、人・人・人で熱気がむんむん。

しかし、第22回パーソナルコンピュータ利用技術認定試験の実施会場は、二条城のお堀と城内の静けさ、まさに歴史と時代風物史を感じさせる風情を窓越しに見下ろした物静かな会場で、受験された方々も心身とも無我の境地で、十二分に実力を発揮されたことでしょう。2~3監督官の判断が必要な場面もありましたが、試験は順調に終了いたしました。

### 新入会者紹介

かみ もり ひろ のぶ  
**神守 宏 征**

大阪府枚方市三栗1丁目1-24-904  
TEL 0720 - 47 - 1469

## 例会報告!

7月2日 (pm.6:30)

大山崎ふるさとセンター

参加者氏名 圓口 岩井 中辻 加藤 中西 羊 河原  
安田 大塚 若井 増田 鍵田

11名

6:30 マイコンサロン

7:30 パソコン認定試験について  
会場説明と監督官要請

## 次回例会

日時 **8月6日** (土) pm. 6:30

場所 大山崎ふるさとセンター

内容 各 部会報告  
パソコン認定試験報告

## 部会開催 予告

1994

**MS-DOS ビギナーズ 部会** 登録者: 加藤・若林・小寺・松田・大塚・仁賀・安田・神守 部長 河原

●第3回 8月 **23** 日 (火) pm. 7:30~9:00

●第4回 9月 **13** 日 (火) pm. 7:30~9:00

■場所 八幡市八幡城之内20番地 TEL 075-981-0063 TEL-FAX 075-982-8064  
増田マイコンルームにて

**Visual Basic 部会** 登録者: 岩井・河原・中辻・松田・若井 部長 増田

●第4回 8月 **21** 日 (日) pm. 1:30~5:00 MDI・コンボボックス・リストボックス

■場所 八幡市八幡城之内20番地 電話 075-981-0063 TEL-FAX 075-982-8064  
増田マイコンルームにて

**DTP プロフェッショナル 部会** 登録者: 加藤・若林・圓口・上田・中辻・松田・仁賀・若井・武田 部長 増田

●第2回 8月 **7** 日 pm. 1:30~5:00

●第3回 8月 **?** 日 pm. 1:30~5:00

■場所 八幡市八幡城之内20番地 電話 075-981-0063 TEL-FAX 075-982-8064  
増田マイコンルームにて

**MS-DOS ビギナーズ 部会**

部長 河原

●第1回 6月14日 pm. 7:30~9:00

出席者：~~加藤~~・~~若林~~・~~小寺~~・~~松田~~・~~大塚~~・~~仁賀~~・~~安田~~

OSとは! MS-DOSがこの世に登場するまで・・・! Q&amp;Aコーナー!

●第2回 7月27日 pm. 7:30~9:00

出席者：~~加藤~~・~~若林~~・~~小寺~~・~~松田~~・~~大塚~~・~~仁賀~~・~~安田~~・~~神守~~

MS-DOS 内部コマンド20個のうち10個!

実際にノートパソコンを使って実行してみました!

ファンクションキーのとっても便利な使い方!

Q&amp;Aコーナー

**Visual Basic 部会**

部長 増田

●第2回 7月10日 pm. 1:30~6:00

出席者：~~若井~~・~~河原~~・~~中辻~~・~~松田~~・~~若井~~

チェックボックス・オプションボタン・コマンドボタン・フレーム・プルダウンメニュー・スクロールバー

●第3回 7月17日 pm. 3:00~4:30

出席者：~~若井~~・~~河原~~・~~中辻~~・~~松田~~・~~若井~~

第2回での復習 or マルチブルドキメントインターフェイス (MDI) について

さすが!: この部会がスタートしたのは合宿からですが、皆さんがフルスピードで習得され、おまけに一題づつに落とし穴もあるのですが、それを乗り越えさらに自分のスタイルに変え、人に指導出来るゆとりさえも習得されています。多くの宿題ともっと高度なものを私に要求されているように感じています。来年の新年合宿には大きなウィンドウのなかを旅するすばらしいプログラムが各自の手によって完成することを目標に進んでいきます。

**DTP プロフェッショナル 部会 第1回**

部長 増田

●7月10日 pm. 6:00~9:00

出席者：~~加藤~~・~~若林~~・~~溝口~~・~~上田~~・~~中辻~~・~~松田~~・~~仁賀~~・~~若井~~・~~武田~~

初期設定と機能説明・制作作品紹介

**参加意義:** 私が、現在に至までの費やした時間と人材及びその他の投資をすんなりと人に教えることになます。手取り足取りと言う訳にも出来ませんので、部会の出席いかんによって一人一人の修得情報がちがってくると思います。多くの情報が待ち構えているこの部会は、即実社会で自分自身の技術として利用して頂けことを前提として、1歩も2歩も先じた技を習得していただこうと思います。(実際に私の職場では、私が全て指導し基本的には1週間の教育養成期間でOKです。)

**習得情報:** 出版編集・アイキャッチャー・ロゴタイプ・タイポグラフィー・ライングラフィー・トレース・フォント(欧文4500・和文90書体)・外字フォント作成・イメージスキャナー・文字読み取り認識(OCR)・写真製版分版機能・レーザープリンター・文字加工ソフト・グラフィックソフト・フォトキャプチャー・グラフィックデザイン・その他

**練習課題:** 名刺・はがき・封筒・表物・頁物・チラシ・カタログ・ポスター・チケット・新聞・地図・グラフ

# デスクトップパブリッシング プロフェッショナル 特集

By 増田

## プロとして...

- スピーディに作業が出来ること。
- コストパフォーマンスが良いこと。
- 操作メニューが簡略化されていて操作技術の習得期間が短い。
- 文章や文字をデザインしレイアウトすることを重視していなければならない。
- 高品位出力に対応していなければいけない。
- フォント数が揃っている。
- プロセッサーに対応する。
- グラフィックに対応しているか。
- 画面に表示されているままに自由に操作が出来る。
- 自分自身が作成したものに納得出来るか。

## PageMakerがなぜ世界で...

Adobeクォークエクスプレス(マック)はたしかに機能的には最高といえますが、細部に渡り設定が出来る。それがまた致命傷なのです。そのぶんだけ時間がかかるのです。企業は1分1秒を競うのです。PageMakerがなぜは、(●スピーディに作業が出来ること。)ここにあるのです。

最近、色々な道具が開発されています。これらは低機能ですが、価格も安く処理スピードが早いという長所を持っています。これらの良いところを利用すればよりすばらしい作品が創れます。

一太郎について、なぜとしか言えません。Windows環境GUIを無視したソフトとしか思えません。いままでのDOSレベルのワープロ操作とウィンドウ仕様のワープロ操作の二つの操作があるのはムダでまた、ジャストフォントという自社専用のフォント。流行りませんよね。なにかかかーい階層へ足を取られる感じです。最近Windowsから入門される方が増えていきますよね。その人達が一太郎を操作して感じるの是不快しかたないでしょう。人間が記憶できるのは毎日操作していても、たまに操作する機能はマニュアルを見なおなければなりません。PageMakerは、(●操作メニューが簡略化されていて操作技術の習得期間が短い。)です。基本はこれですよ。一太郎は以前のままのほうがいい、なぜWindowsでDOS版をWindowsが立きそう。ジャストシステムさん、よりシンプルが合い言葉です。

簡素でスピーディ・高機能それでいて自由でグラフィカルであること。

### ALDUS PageMaker ヘルプより

#### カーニング (文字間調整)

カーニングとは文字と文字の間隔を調整するための機能です。カーニングは2つの文字の間、あるいは選択したテキストに対して手動で設定することができます。

手動によるカーニングの他に、特定の欧文フォントに対して自動で文字間を詰めるペアカーニングの機能を [段落設定] ダイアログボックスで指定することができます。ただし、数多くのペアカーニングを行なうと処理速度が低下するので、通常は見出しなどの大きな文字に対してのみ設定を行ないます。

カーニングは間を詰めたい文字と文字の間に挿入ポイントを置くか、文字を詰めた範囲のテキストを選択して、テンキー上の [ + ] キーと [ - ] キーを使って、以下の操作で文字の間隔の調節を行ないます。

#### 手動カーニングのショートカット

- CTRL+ [ - ] 文字サイズの1/25単位で詰める
- CTRL+ [ + ] 文字サイズの1/25単位で拡げる
- CTRL+SHIFT+ [ - ] 文字サイズの1/100単位で詰める
- CTRL+SHIFT+ [ + ] 文字サイズの1/100単位で拡げる
- CTRL+SHIFT+ [ 0(ゼロ) ] 手動カーニングを解除する

#### 文字間隔の調整

## ALDUS PageMakerヘルプより

PageMaker上でグラフィックの上下左右の不要な部分を切り取る「トリミング」を行なうことができます。

通常では画面に表示されない改行、タブ、スペースなどの特殊文字を画面上で確認できる。

## 出力サービスセンターを利用する

PageMakerでは、出力サービスセンターなどを利用して高解像度のイメージセッタでの出力を行なうことができます。また、出力サービスセンターでは画像データの取り込みやカラープリンタへの出力を行なっているところもあります。

最終的な出力を、出力サービスセンターを利用して出力する場合には、実際に作業を開始する前にあらかじめ出力サービスセンターの担当者に相談することをお勧めします。出力サービスセンターでは、ソフトウェアや出力機についてのさまざまなノウハウを持っているので、あらかじめ相談しておくことで無駄なコストや時間を削減することができます。また、Windowsからの出力サービスを行っていないサービスセンターもあるので、Windowsからの出力が可能かどうか事前に確認しておいてください。

出力サービスセンターで出力した版下を印刷業者に渡して印刷を行なう場合には、ポジなのかネガなのか、フィルムなのか印画紙なのかも確認しておきます。

最終的な出力をイメージセッタで行なう場合でも、通常、作業中の確認用の校正刷りはページプリンタで出力します。このような場合でも、作業を行なう際は、必ず最終的な出力を行なうイメージセッタを【プリンタ設定】ダイアログボックスで選択しておきます。

出力サービスセンターで用意している出力機で、どのようなフォントが使用できるかを確認しておく必要があります。特にプリンタに標準で搭載されているもの以外のフォントを使用する場合には、必ず確認するようにしてください。

出力するためのデータを渡す際には、PageMakerのパブリケーションが必要なのか、PostScriptの出力データが必要なのかを確認してください。

PageMakerのパブリケーションを渡す際には、必ずWindows版PageMaker 4.0Jのファイルであることを伝えるようにしてください。また、データを渡す際にページプリンタで出力したものと一緒に渡しておくといいでしょう。

PageMakerのパブリケーションを渡す場合には、リンクするためのTIFFファイルも用意しておく必要があります。TIFFファイルは、サイズによって出力の時間が大きく影響するため、特に料金を時間単位で計算しているような出力サービスセンターでは、無駄に大きな画像データを使用するとコスト面でも無駄が発生するので注意してください。

## カラーを扱う

PageMakerではカラーのパブリケーションを作成することが可能で、それをカラープリンタへ出力したり、印刷業者に依頼してカラー印刷することができます。PageMakerで扱えるカラーには、スポットカラー(特色)とプロセスカラー(色分解)の2種類のタイプがあります。

スポットカラーは、会社のロゴのような特定の色(特色インキ)が指定されているような場合に使用します。PageMakerでは、一般の印刷で使用されているDIC / TOYO / PANTONEなどのカラーインキを「カラーライブラリ」ダイアログで選択することができます。

プロセスカラーは一般に4色分解と呼ばれるCMYKの4色の組み合わせでさまざまな色を表現する手法です。カラー写真などの出力を行なう場合には、この方法で出力を行なう必要があります。プロセスカラーによる色指定を行なう場合は、CMYKのカラーモデルで指定を行ないます。

ただし現在はWindows上で4色分解を行なうためのアプリケーションが無いいため、一度Macintosh版PageMakerにファイルを変換してからAldus Pre Printなどのアプリケーションを使って4色分解を行なう必要があります。

印刷業者に依頼して4色分解・特色分版を行なう場合には、依頼する前に担当者と相談しておくといいでしょう。特にRGBやHLSでの色指定は正確に再現できない場合があるので注意してください。一般のカラー印刷では使用する色ごとに版をつくり、PageMakerで印刷を行なうときも同じように特色分版を行なう場合は使用した色の数だけ、4色分解を行なう場合はCMYKの4版をそれぞれ出力します。特色分版を行なう場合には、重なった部分を自動的に抜くようにする【抜き合わせ】オプションを使用することができます。

プロフィール

NO. 10

かわはらともさぶろう  
河原友三郎

1972年は第一次石油ショックによる不況の一年目であった。この年にパナソニックがマイコンのPC8080を拡張するための評価ボード（SDK-80）の講習会を日本国内で始めたのであった。そのときの費用は、評価ボード込みで約2.5万円だったと記憶する。何とか理由を付けて公費で参加できないかと知恵を絞ったが、時期尚早で後5年ほど待たなければならなかった。

なぜ、マイコンの世に注目したかと云えば、当時の汎用小型の計測制御の電子回路はアナログ系で、計算回路や演算性能に限界があり、他の手段による演算回路の出現を多くの電子技術者は渴望していた時代であった。小生もその一人であった。

1974年には東芝が12ビットの評価ボードを市販し、翌年、日電のTK80評価ボード（一般にマイコンボードと呼ばれた）が出て、このときの販売普及活動やマイコンが今日の日電の市場第1位があると思っている。やっと、1976年にTK80を手に入れてマイコンの世の仕組みを理解することになった。マイコンのマイコンボードに置かれたPDA-800開発機を使ってマイコンの出力を出力したり、ROM化をしたことから、マイコンの世界にのめり込むことになる。現在までにいろいろな思い出を簡単に年代別に次に列挙した。

1977年 日電 マイコンボード（TK-80BS）入手。CRTモニター接続、BASIC言語独学。静電転写ヘッド使用プリンター接続。

1978年 マイコンボードとマイコンボード接続。

1980年 マイコンボード投稿し、「NECマイコンボードユーザーズ NO.9」に掲載された。

1981年 日電 パーソナルコンピュータ（PC9801）入手。N-BASIC言語へ変更。PC8001とマイコンボード接続するマイコンボードを「マイコン技術」へ投稿してマイコンボード特集号へ掲載された。

1982年 関西マイコン（大阪）へ参加。同会の会報へCP/Mの解説記事を投稿する。ICM社からPC8001用3インチフロッピーディスクとCP/Mが動作するボードを入手して、マイコンボードを習得する。さらに、C言語のマイコンボードの独習をする。そのために、マイコンボードが存在していることを知る。

1983年 読売新聞社から、「おとこの休日」で女性記者の取材を受ける（1983/1/16掲載）。日電PC9801Eを業務で使う。N88BASIC言語でマイコンボードを作る。仕事で、マイコンボードZ80を使用したマイコンボードをやっと完成させて世間へ売る。

1984年 ワールド「太郎」の勢力が広がり始め、それに採用されたMS-DOSが、CP/Mに置き換えられる。仕事で生産用マイコンボードのシステムをパーソナルコンピュータで構築する。CRT画面が動力線の負荷に応じて画面が揺れて困った。

1985年 京都マイコン研究会へ参加。秋にPC9801UX2を購入。このとき、PC8001とお別れ。600ボードのマイコンボードを使って、マイコンボード通信を始める。

1986年 雑誌の読者サービスの抽選が当たり、通信ソフト「OCT98」を手にして、低価格で最高級品で驚きと感激の毎日を過ごすことになる。その後、MS-Windowsの世界へ入るまで愛用した。

1987年 東芝DynaBook/J3100ssを購入、出張などに持参して、マイコンボード作成やマイコンボード通信に使う。今もマイコンボード専用機として健在である。

1989年 外付けのハードディスク装置を付ける。MACを業務で使用する。表計算「Excel」を知る。仕事に没入してマイコンを習得。DOS版の表計算と比較にならないほど操作性が良好であった。

1991年 PC9801DA購入。

1992年 サリックス社の486CPUをPC9801DAへ搭載、WINをインストールするため、再度外付けのハードディスク装置を付ける。お古は転売する。光磁気装置（MO）を手に入れる。日電・IPの各社マイコンボード用語を使用してマイコンボードを作る。

1993年 PC9801DAではWINの実行が遅く、仕事に使えないので、初物のPC9821Asと17インチを求めた。結果は、満足の行くものであった。秋に最低価格のCD-ROMドライブを接続する。先の雑誌の読者サービスの申し込みを時々、続けていたら、「Turbo C++の応用50例」が当たり、丁度、仕事に利用の機会があり、有り難いマイコンボードであった。

1994年 大容量のディスクが仕事に必要になり、IDEタイプHDDと外付けHDDを交換した。Windows上での図版作成や作図、写真修正などの技法を習得。

小生のマイコンボードユーザーから、パーソナルコンピュータへの変遷を記述しましたが、これからのパーソナルコンピュータの姿も、個人ユースの範囲では、卓上計算機（電卓）と同じよう経路を辿っているように思う。企業集団に使われるパーソナルコンピュータと、家庭または、個人専用のコンピュータは、それぞれ、異なった性能・構造とも違った多分化するであろう。個人としては、お金のかかる玩具で無い回されておき、どっかて断ち切つて、もっと有意義な方向転換を計りたいと思っているが、思い切れない。

本会に入会して、人生の先輩であった入江さんに巡り会い、横浜へ転宅されてから、毎週、メール交換を行なったことが忘れられない出来事であった。一方、会長の圓口さんが会の運営に苦心され、今まで継続されていることに感服し、感謝をしている。この会のマイコンボードは年2回の合宿があり、毎年が楽しみである。

**マイコンボード通信**

マイコンボード通信の歴史は、1980年代初頭に遡ります。この頃、マイコンボードの普及に伴って、ユーザー間の情報交換の場として、マイコンボード通信が盛んに行われるようになりました。この通信は、単なるデータのやり取りだけでなく、技術的な相談や、最新のマイコンボードの情報を共有する重要な手段となりました。

マイコンボード通信の発展は、ユーザーのニーズに応じたサービスを提供する企業や個人によって支えられています。特に、マイコンボード通信の発展に貢献した企業や個人には、感謝の意を表します。

マイコンボード通信の未来は、ますます明るく見えています。最新の技術や、最新のマイコンボードの情報を、ユーザー間で共有し、相互に助け合っていくことが、マイコンボード通信の発展の鍵となります。

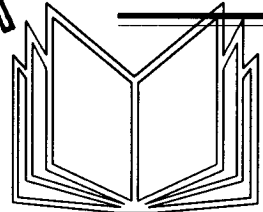
マイコンボード通信の発展を促すために、ユーザー間の交流を促進し、最新の技術や、最新のマイコンボードの情報を共有し、相互に助け合っていくことが、マイコンボード通信の発展の鍵となります。

マイコンボード通信の発展を促すために、ユーザー間の交流を促進し、最新の技術や、最新のマイコンボードの情報を共有し、相互に助け合っていくことが、マイコンボード通信の発展の鍵となります。

## DTPとワープロの主な機能の差異について。

DTP分科会などで学習が始まっている。この際、多くの方が「一太郎」に慣れ親しんだ方への理解とMS-Windowsで多く使われているソフトの差異を紹介することによって、文書作成の技能を高めて頂きたいと思います。

# DTPとワープロの違い



### 編集部の意見

#### その1.

最近のワープロは、DTPへ限りなく近づいていて、その垣根の存在は見えなくなっている。Windows環境でワープロを使うことそのものが場違いでは、DTPの環境そのものがGUI。(グラフィカルユーザインターフェイス)自由自在でなければならぬからである。一方はワードプロセッサはソフトで決められた操作法で順序と規律に添って操作しなければならない。この違いソフトハウスの方解かりますか。

#### その2.

ページメカへ図版や図形、写真、絵、イラストを貼り付けると、それらの上に文字を書ける。一太郎やMS-Wordの場合は、出来ない。また、双方ともに図版などのファイル形式が(拡張子)特定のファイルのみで無いとインポート出来ない。

#### その3.

ページメカは、一画面に2頁分を表示できる。

#### その4.

WIN版「一太郎」が発売されたから、MS-Windowsへ切り替えを考えている方、MS-Windows版の他社ソフトへ一太郎の文書ファイルは簡単にインポートできるから、新たにソフトを求める必要は無い。何故かと云えば、表計算+ワープロのソフトがかなり、安い。(詳しくは、DTP分科会へ質問を!!)

#### その5.

DTPとグラフィックス(代表的なものは、イラストレータ、デザイナー)は、全く異なった構成のソフトである。それらのソフトの使い勝手を混同して論じられている。どのソフト場合も勝手なユーザの意見を出る限り取り入れるから、ワープロ、DTPなどそれぞれのソフトにそれらの機能が追加されて今日の姿となった。その姿に惑わされないように使い分けが必要と思う。

#### その6.

グラフィックデザイナーや版下デザイナーが、日常茶飯事の様に使用してきた長体・平体は基より文字列の中の1文字だけをもとのサイズの25%~999%の間で、拡大/縮小印刷することができます。一太郎・ワードでは、出来ない。そのことは、プロ向けか一般向けかでもあるのだが、最近是一般の人でもかなり体裁にこだわる方々が多いのである。

#### その他.

1枚1枚の用紙に複数ページをミニチュア印刷します。  
文字サイズを4~650ポイントの間で0.1ポイントきざみで指定。  
任意の場所に水平・垂直に移動する。文字をかぶせることもできる。  
プリンタの解像度に合わせたグラフィックの拡大縮小。